

寛永諸家譜

清和源氏乙五母之内  
義家流之内足利流

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186	( 15)	
函號	特	76	1

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 cm

Kodak Gray Scale  
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19  
© Kodak, 2007 TM: Kodak

G Y M





細川 之剛

畠山 上杉

寛永諸家系圖傳

清和源氏

乙二

義家流

足利流

細川

清和天皇七代

義家

八幡太郎

清奥守法身府將軍

淺草文庫

義國 よしくに

式部大輔 しきぶのたすけ

義康 よしやす

是利新判官 これしんはんぐん

義清 よしきよ

矢野判官代 やのはんぐんだい

義兼 よしあき

上総介 かみさとのすけ

是利親 これちか

義實 よしじつ

廣澤判官代 ひろさわはんぐんだい

實國 じつくに

仁木大郎 にきののちやう

仁木親 にきのちか

義季

細川次郎

俊氏

細川八郎

公頼

八郎右郎

頼春

瀨波身 刑部右補 漫回位下  
等持院殿寶蓮院殿よけふて軍  
切あり

頼之

右馬頭 武藏守 菅原職  
康苑院殿の輔佐しり

頼有

右馬頭

掃部助

明徳二年九月卒

勝妙院と号す

頼元

右京大夫

頼之の継子とす

子徳代と管願職とあり

詮春

左近将監子徳代とて撰後身と号す

頼長

刑部大輔

薦福院

持有

刑部少輔

最勝院

教春

刑部大輔

号観院

常有つねにあり

刑部少輔 播磨守 法名通泰しやうたうたい

政有まさあり

刑部少輔

元有もとあり

刑部少輔 善法寺ぜんぽうじ

元常もとつね

播磨守 美松院殿 光源院殿 小治子みまのしゅ みのまついん てるげんいん せうぢこ

頼貞よりつね

八郎 四郎

顯成あきなり

澁奥守 淡田位下 小侍取しぶおくのしゅ たんたのかわげ せうじとり

定禪

号持院殿よ次之て軍功あり  
貞和六年二月四日卒 膳菌寺と号

宮内少輔

号持院殿よ次之て志を以て軍功あり  
と号す

繁氏

伴豫守

業氏

淡奥寺

歩部大輔

淡田位下

新樹寺と号と

満経

引付頭人

淡奥寺

淡田位下

寶泉寺と号と



持經 もちのり

中務大輔 かづのたみ

澁奥守

顯經 あきのり

民部大輔 たみのたみ

上野守 かづのたみ

成經 なるのり

中務大輔 かづのたみ

澁奥守

尚經 しののり

中務大輔

澁奥守

尹經 いののり

中務大輔

澁奥守

淡田位下 あまのうら

坂下名宗と尹隆とありき

晴經 はるのり

之郎四郎 中務大輔

光源俊殿元服の時發せきの役と

しと

輝經 てるのり

中務大輔

光源俊殿元服の時發せきの役と

藤孝 ふじのたか

兵部大輔 二位法中下は

判發の坂名と重旨とわうた

進叔と号と

實ハ之淵 任實守入道宗薫子なり

海らと細川刑部少輔元有と

て子と

新松原殿光源院殿二代（此より）  
光源院殿（之好松水道人）  
—たまひ討取者南都—  
ひそくに義昭は信年—比列着列  
越前養濃と包てつわぬ織田信長と  
すめ岩とおこ—二をひ京都—  
入事とゆくり其間友者わす欠心  
と決り—と明り—と成めら—と身命  
とすて功勞とて守事あげてかぞ

ふる—と其後藤孝義昭の信長よ  
うじきたま—と—と—  
い—と—と—  
よ—と信長よ属と  
元龜四年七月藤孝信長の下知と  
うけて城列濱の城と其し城を岩成  
主税頭討死—と—と信長よ  
感状をたまひ其書賞—と—と長正初  
植川よりぬ地とたまひ—と—

て長官と称号して甚状云

今度討討信長は拙忠首以謀

詐妙に玉以仍城列の内浪桂川

地之車一藏戸語の全飲知

不有お遠く状如伴

元龜四年 七月十日 佐々木宗平

細川景勝大権取

其後藤孝とて戦切わるに信長

より感状とたまふに新之様といふ

一乃乃朝川墨城系符数多首注

文島東山新骨く候詐妙に程以

二拙戦切也

十月之日 佐々木宗平

忠告者大権取

折紙神見以河内之个城(吉崎)

敵お働以及一戦首少く討捕

く逃散く申尤も程以全中(河内)

心懸不程以次び表く事端一

撲之指落不崩出之乃追討首  
數多見奉之世傳一取之相宛人孫  
浩陣中付山系之白て為落人  
物之津田の相承之海く初て  
お落人委細境可戸之とて之  
八月二日 信長書中

長尾景春大福友

天正四年大坂中願寺門跡信長さま  
がはらけ時友春徳大助と申す大坂

とすりまきひしと津と書とき  
信長より書きたまはれ其詞いしく  
為八朝之親友惟二生猶然四  
玉津佳例今祝恙人次自大坂  
各一撲即追討首之は討首  
皮を巻く糸く巾衣心御承  
下とらぬ之趣書中以て中感候  
初て此書一と委細福書中  
也地々

七月廿九日

信長書中

長尾景虎宛

田入年比外難蒙の二様始起のとき  
藤孝長尾より仰てこそ成らぬ  
の首大位長と致すは感状と  
ましく甚詞よ云

昨日長尾合戦と先馳致す人  
討死し首を奉るは神妙な程  
候無き類に吾人敢首致すに宗

感懐少後より入替ゆ

二月廿三日

信長書中

長尾景虎宛

吾が萱振飯盛く合戦のとき信長  
より皆感状とたまふは詞よ  
今度萱振と討捕首位又奉  
加披見し謀に程骨く候感懐無  
抱ふ跡我切も一ふと地

九月廿四日

信長書中

長尾景春大捕り

去十月廿日坂下一揆討捕首  
渡又新米を以て地味は表り先  
半あり不日打宗の君別下  
家主と孫我之助一白と云

九月廿二日

信長景春

長尾景春大捕り

同九年冬長尾景春法率とひきめて  
中五(夜向)のとき藤孝因幡伯耆の

境と陣とより我切あふより信長よ

里感状二通とたよ

折紙并松井浪を状か披見り  
北伯列面深くお新治城押入致  
討名く忠と致火敵船六十六艘切  
採く由尤も本迄致く新治城を  
打入く刻自大崎城居おるを刻  
追器皮山下焼掃人首首以感情  
之儀に能くお勇孫抽杉骨作振

てしや中よりき一色

九月十六日

信長書

長尾景春大將

松井昌介加賀勘十郎重なる雲  
伯境目お勤致し教艘切方く左  
右者廿八人討捕虜なく注文并  
羽柴友吉郎打紙動来披刃元  
以無以新新骨薄感懐疾人  
若其忠意く旨能く言ふるも也

九月廿四日

信長書

長尾景春大將

其後藤孝秀吉よま刃し

東照大権現と相湯と法藝よたづし

り之道よ長と新事多し

長十八年八月廿日城列少く率

年七十七

藤英

之淵大和守

藤孝兄一名顯家



紹琮

大徳寺の僧

玉甫と号す

元沖

南禅寺の住持 長老 梅印と号す

某

長谷川某寺

豊後國よおのて病死

女子

宮川と号す

若列 長田宮内少輔信重の嫁と

忠貞

建仁寺十如院 長老 永雄母

友英 下の一人 皆之 剛作 賢者子

して 藤孝と 兄弟 たりといふ 色志り

と 細川 刑部 少輔 元有 養子 といふ

ら せ 家より つる といふ 家ハ之 剛氏 の

先祖ハ 將軍 源為朝 の 為 胤 たり

子一即

越中守

從三位 叙す

恭謙 といふ

利隆の後宗立と稱し之母と号  
實ハ若部大輔藤原子なり

永祿年中中光源院殿の命より

中務大輔輝経養子となり其家と

つぎを後とつとめて大外孫とたり

天正八年信長より母族國とたより

安長八年

大指現より母族とありたぬ其前國并  
是後の内二郡と相領と是より年忠

減とけり又八國が原合戦の時軍功と  
いげまことかゆなり

真元

頼小郎 主善次 従六位下

安長十八年

大指現より出され下野國よりあて後本店  
一百石之地とたより

同十九年大坂津陣の役年と

元和元年大坂津陣津佐に軍

切りしより加増として常列首の

内より六千人を領と

同四年二月十八日死に歳六十七

法名粹英

妙菴

豊前國におわて死に

孝之

女子

中務少輔 別巻の段休所宗也と号と

吉田右兵衛尉卜部 道治が妻

女子

木下右衛門大史 延俊妻 病死

女子

長尾伊賀守妻

女子

長尾与九郎妻

与九郎ハ中流中洲之通播磨の子ナリ  
忠貞より長尾氏と云々

貞昌

玄壽頭

従六位下

元和四年貞元を跡と一考に於て

忠利

内記越中守 忠貞之男家督とて

母ハ明和日向守光秀女ナリ長元年

大坂におわて石田治戸少輔之成がためし

自害とこそ忠貞

大権現よりさうごひくそまつて関東にお

ゆしけが致なり

長十年四月没入佐々木一信に

任じ

寛永二年八月後位に叙し、左衛門少将  
に任じ

同九年

將軍家より昔前とありて、  
なほより其の又昔後の内にて、  
おのれ忠利

大権現

台酒院殿

將軍家へ流し、  
勅号と

不地三とく、  
同十八年三月十七日、  
年六十六、  
号と

忠隆

子一郎、  
判發の後、  
忠利兄弟

忠利、  
母

某

長男、  
忠利兄弟、  
母忠利、  
母

元和元年京都にて死

立孝

中務大輔

眞孝

刑部少輔

女子

お望生雲守喜

母八忠利八同ト

女子

福榮民部少輔喜

母同同ア

女子

長尾佐渡守喜

女子

烏丸中納言友原光賢光賢の室

光尚

肥後守

母小笠原兵部大輔秀政女秀政の室

位康主康主の外外孫女孫女なり

寛永十二年七月後四位下叙一内侍

一内侍

同十八年八月忠利左近将領と

男子二人

女子二人

家の故二川五九曜

● 集

三淵

伴賀守 生國之野足利  
万松溪義晴より

顕家

大和守



光源院義輝のちりとなりてけしん坊家  
其後任長の命よふりて坂本の城よ  
おわて身寄と 法名宗光

先行

伯耆守

二輩の時父顯家よえられ細川普部左衛門  
藤孝よ養育せし藤孝ハ顯家ノ弟  
なりハ輩の時

大権現と稱しきとらん家

長六年園が原湯陣よ修平と

同九年六月二十二日没入位下ノ叙

伯耆守よ修平

同十四年十月知行千石とたまひ給

大権現薨御のむら

台酒院殿よけしんをてらん家

元和九年九月十六日病死 時よみ十之輩

法名宗心

藤利ふじり

繼殿助ついでんすけ

安永十七年十一月十二日發利九筆かき

大指現と稱なづしてたてまつりてむらじ

御前ごまへ候ごうと

大指現おほさしげん費ひ御ごの後のち

右みぎ酒さけ院いん殿のち御ご費ひ御ごの後のち

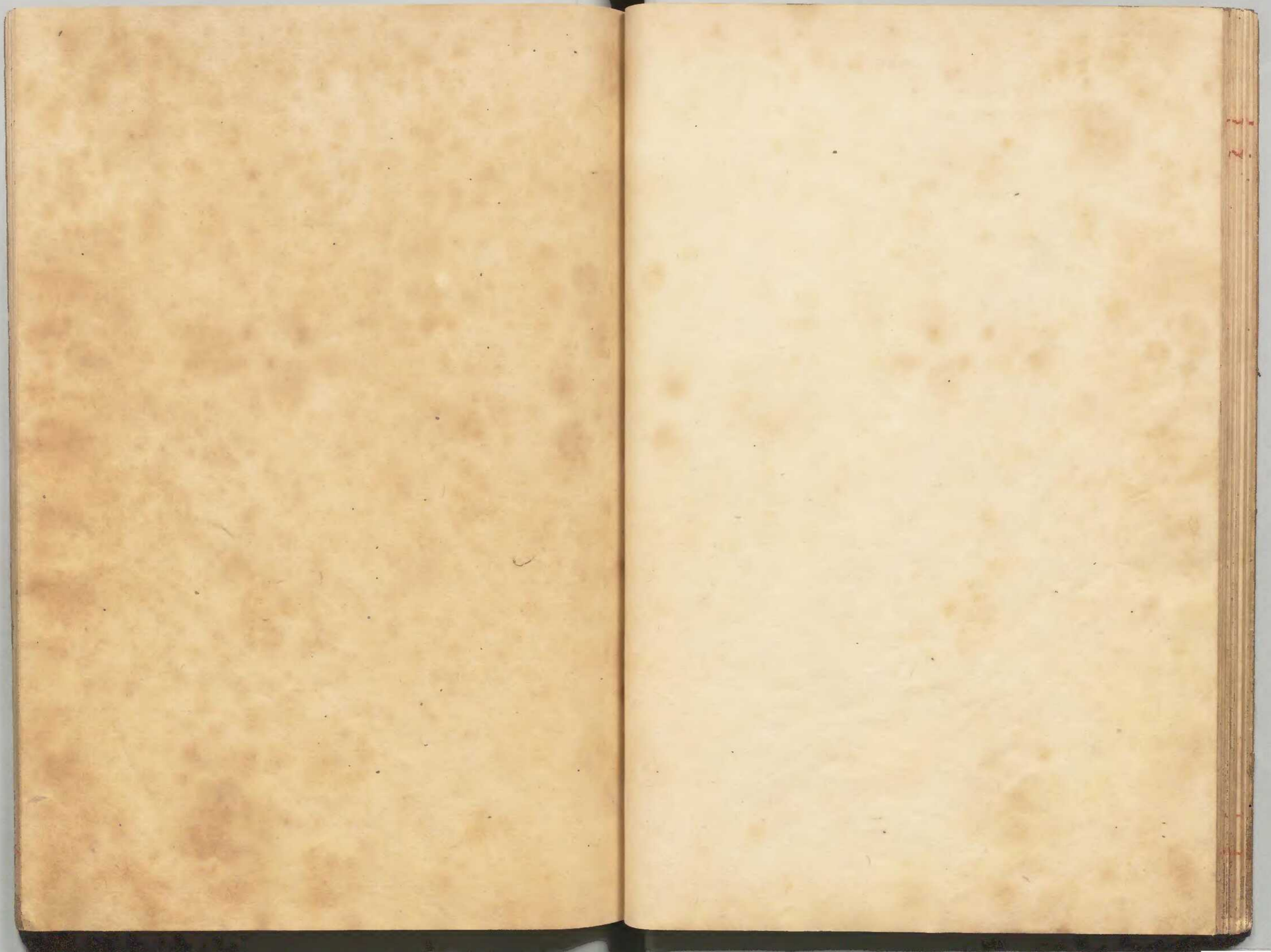
右みぎ酒さけ院いん殿のち御ご費ひ御ごの後のち

將軍家しやんぐんけより承うけたまりて申まをす

寛永八年九月御書院ごしやういん者ものとつとむ

のら御小姓ごせうじやう繼ついでんより承うけたまりて御書ごしやう者ものとつとむ

家いへ級のり桐きり墓のぼ二ふた川がわ



昌山

義家ノリノ氏ノ

● 義康ノリノ

是利新判官ノリノ

義兼ノリノ

源入位下ノリノ

上総介ノリノ

義氏よしか

正四位下ただしゝのゐげ

足利右馬頭あしかがのまがしら

義純よしくん

畠山先祖はたけやまのせんぞ

没入位下なげり

遠江守とほづのり

恭國あやむら

上野前司之郎うづののまへし

國氏くにうぢ

正六位下ただしゝのゐげ

河内守かはりのり

一統ノ時國いつたうの時くに

貞國さかきくに

没入位下なげり

民部丞たみべのちやう

家國いへくに

没入位下なげり

尾張守おわりのり

國清 くわんせい

修理大進 しゆりのたしん

河波寺 かゐのてら

道誓 だうせい

義深 ぎしん

尾張寺 おりのてら

増福寺 まふくのてら

基國 きこく

右清門佐 みぎのしみんさ

長祿寺 ながしよくのてら

法名 法元 ほつなま ほうげん

満家 まんけ

尾張寺 おりのてら

真観寺 まんのくわんのてら

法名 道端 ほつなま だうたん

満則 まんねつ

修理大進 しゆりのたしん

又満度 またまんたつ

長門寺 ながののてら

義立先祖 ぎたつせんぞ

持國 ちこく

漫之住右衛門佐 後右清門佐と号す まんのぢゆうゑもんさ ちのりしみんさ とごうす

持富

光孝寺

法名酒本

尾法寺

妙音寺

政長

左衛門督

尾法寺

実澄寺

實持富子

長祿寛正のころ政長義就家と相  
福一合我よおよせいとと政長

ら初ら管飲職とゆ

家傳よいよく漢之位よ叙と

義就

右衛門佐

作強寺

宝泉寺

尚長

漢下位下 左衛門佐 尾法寺始ハ尚長

勝仙院 法名新源德陽 卜山と号と

植長 たけなが

右清門佐 尾法寺

大和寺

法名 覺源悟公

改國 まへくに

播磨守 尾法寺

後學院

法名 教國宗貞

高政 たかまさ

尾法寺 多摩寺 法名 高政 高政一室

少号 高政

政尚 まさのぶ

播磨守 融安院 始ハ政義

法名 一風雲松

昭高 あきたか

左衛門督 親述寺 始ハ政頼

法名 高源道者

先祖生國之列のよとひつゝ高政



將軍在洛の頃より代々河内守  
 乃城主なり  
 天正二年信長のとき家老越前河内守  
 謀叛より服する自害とす終より  
 畠山の家没落と

貞政

左衛門佐 國算院 法名 莫山主心

政信

民部大輔 生烟 紀列  
 元和元年七月

大権現

白河院殿と稱しとてまゝなり

同八年八月

將軍家と稱と

寛永元年十月より江戸よりわけて

清奉云とつとじ

象の紋柄 幕の紋二川ある幅白

昌山

義統七代

● 基國

右清門塔

満家○

民部少輔政位記

滿則まんねつ

修理大吏しゆりのだいし

勝禪寺せつぜんと号ごうと

義忠ぎちゆう

修理大吏

北清寺きたしみずと号ごうと

義忠

修理大吏

宗榮寺そうえいと号ごうと

政國せいこく

修理大吏

大念寺だいにんと号ごうと

義統ぎとう

修理大吏

弘林院こうりんと号ごうと

義則ぎねつ

修理大吏

義隆

修理大進

勝安寺と号す

義春

民部少輔 入彦 生國能列島山

義長十二年京虎峯子と号す京勝

姉軍の海と号す(と称す)と号す

永祿三年京虎岡東へ入ると野の

内和四乃城晴佐よりまのれよつき

京虎と号すこれとせし京時京虎自

身姓と号すこれとせし京時京虎自

一命とす我れとすこれとせし京時京虎自

海と号す此度の軍切にまわり石の

和四の城といふ今乃高橋のよりなり

佐列の佐人村と義清佐列坂本の居城

と晴佐みよと号す京虎と号す此の

乃事と号す此の度ハ京虎晴佐

と是非の合戦とぞいふべき事なりとて  
同四年九月十日信州川中流におわて  
合戦乃時京虎先鋒八幡寺和泉守母友  
下野守長尾越前守左右二子とてきり  
りふ京虎旗本とて入りて京虎  
晴信の旗本とてきりて晴信の旗本  
敗軍一着部川へひききりてく  
京虎川中へ京虎の晴信と二太刀と  
其時京虎長尾河村と敵陣へけり入て

太刀うらるる名わりを京義とて京人元義  
出雲守河村十郎義とてを名わり  
そのの旗本とてを名わりとて  
あまのなり又討死するもこれとて  
京虎信州長光寺と陣とて取山と  
て首實檢一飯山お入日陣とて  
晴信の使とて一合戦すまの  
いひつる川中流の合戦とて京  
の事とていふも是とて

三

同十一年越後系虎家人本と新前守  
重長といふの道心と合て本との城  
筑城と系虎出るの時義忠先手より  
敵味方川と臨て對陣の所より義忠川  
中へ急こむと見えて元藁与十郎あつて  
家人皆川中へ入て敵を度々の境  
とあつていづれ我の重長とて一とて敗軍  
すといふは川とて義忠とてあて敵之人

とら首の島一島といふ時重長と義忠  
たひよれりじくと義忠より一も方ひき  
ちりせ

元龜元年武列のうら波西の城と系虎  
お田のわのうよ貴おとすけ時系虎自身  
法とていふとていふとて越後の流とてい  
いふとていふとていふとていふとてい  
義忠とていふとていふとていふとてい  
られが義忠が家人元藁出雲守同

与十郎其が士率進とわを落城の  
町のうらむどあてきりうらむと城を八波西と  
つふのめなり

越中の小出の城より庄助又即地より

とつうひわんせてきてこの城より

義長系虎の下知とうけと塔とありて

せめおとひ

同二年能列七尾の城を高山義隆十  
八歳とて病死して能列は國をこれか

きゆ義隆が系長長對馬守の九郎左衛門尉

延保義作守の彈正左衛門温井備中守

と物頭として其外の系長數十人心と

として義隆と系虎のまこと同て天正

二年八月二日七尾より九月十一日

よせめおと守其時義長軍切り系ゆ

系虎廢義として能列ハ元來義長

本國に死よりなりなりとすまのよとて  
義長譜代のうらむの千宗と義長



よ属せしむるに下よ京虎いふおのひ  
らん義春と八郎中八郎中の院日荒山の附城よ  
こしをき七尾七尾ハ左坂越中守河清介  
村田与十郎村田与十郎兼田監物長次信濃守其  
外侍とをあまうつけとてとて七尾の  
落城せし事ハ遊佐美作守味とあり  
長對馬守河九郎左清門号の侍大将十  
一人討死せしありけし時信長より  
加勢とて一采田修理太史羽采筑前守

前田又左清門依り内蔵物全森八郎ハ  
加判右烟府塚まで教何ととてとて七尾  
すてお落城せしれよりとて引くと  
天正六年之月十日京虎病死と京侍  
小糸之郎と公我よ及て京勝ハ春日山よ  
陣とてし小糸之郎ハ春日山とてし事  
六七町とて沙館小陣とて敵味方毎日  
いとし殺しありあるなり義長とて  
わしとて計策とてしとて自身教度の

軍師と書し法華と下知と京橋春日  
山のしんひ毫宕山小巻子と置而  
之郎先とせめとられし義長春日山  
之是とまき早迷交つけ其日よ  
毫宕山とらむとと郎が士年おが  
くうらに於てお京勝と之郎合戦の  
わの義長とらむとまきの場取おが  
とんごとわけておがらるる守  
同七年教度の合戦よ小条之郎うら

まけ其よ小条丹後守うら死すゆ  
之郎越後の内務尾の城へひきまらゆ  
く和と義長おとせ之郎切腹と其  
時園楽の上校憲政と切腹せしゆ  
京勝うまきより運とひらく

同十年越中の松倉と小津のあゆ  
京勝京河内豊前守守備六義長田  
小之郎安部右衛門竹俣之河守中条  
越前守石川宗女吉の長即沼押部

若林九郎左衛門山平寺勝義（山平）を介士（介士）率  
わきし（わきし）右の両河（右の両河）とよりふと（とよりふと）しんじ（しんじ）長  
らく（らく）松倉小津と近路のため坊々（坊々）内難物  
佐久（佐久）乃主善酒山（乃主善酒山）の昔清栄田修理（の昔清栄田修理）を介  
物頭（物頭）数千人（数千人）しし（しし）しつ（しつ）よつ（よつ）めて（めて）京橋（京橋）越中  
（出ると又信濃のらくハ毒勝義大将と  
しと（しと）越後二本木（越後二本木）とて（とて）教向と義長二本木  
のどく（のどく）とて（とて）これわくとし（これわくとし）とて（とて）も之方路ハ  
大軍（大軍）なり義長も（義長も）勝（勝）はす（はす）く（く）な（な）ま（ま）き（き）よ（よ）り

義長てきとくとのりてみるの勢と大  
軍の祈（祈）み（み）見（見）せ（せ）られ（られ）と方路（方路）佐列（佐列）（ひ  
きと（きと）於（於）聖日（聖日）位（位）長（長）地（地）勢（勢）の（の）り（り）者（者）来（来）ら  
よ（よ）り（り）と方路（方路）い（い）り（り）佐列（佐列）（ひきと（ひきと）於  
同十一年十月十八日京勝家（京勝家）は（は）栄田（栄田）因幡（因幡）等  
か（か）ら（ら）び（び）よ（よ）道（道）号（号）舟（舟）逆（逆）心（心）と（と）お（お）こ（こ）し（し）て（て）越後  
乃栄田と（乃栄田と）お（お）十（十）若（若）将（将）の（の）あ（あ）城（城）よ（よ）と（と）て（て）こ（こ）れ  
是と（是と）近路（近路）せん（せん）ため（ため）京勝（京勝）出（出）る（る）せ（せ）し（し）や（や）ま（ま）し（し）  
先（先）手（手）乃（乃）軍（軍）勢（勢）と（と）橋（橋）よ（よ）と（と）取（取）軍（軍）せ（せ）し（し）

より因幡を獲よきて京勝が旗本へ打  
てかけりすてよわやうかりしをよ義を  
京勝旗本の前であつかわり京勝日の  
丸の旗とさうと十間がどきまきし  
出ー義もさうまじりの士率どり  
るよりゆかりして種と膝のとみ宝芝居  
よかり志めて備とさしにまじり因幡を  
るどりししてひまきうぢくさうとあ  
とよまきししてよひりし京勝自身る

とめて敵と二騎つまおとし首と即  
よらうと京勝先手五後と追らう  
てみ十君野の城下までいり

同十二年八月十八日京勝柴田因幡を  
道より舟等と退治のため出ると並に  
山城守先手とうけあはるといひと  
敗軍せしむより義も二のせり  
わけてとさうまじりし旗とをた  
て横合よ入くづり八幡まじりし

八幡といふ所ハ佐々木川の筋ありあり  
六十君姫の城とさうりりみま所なり  
同年京橋位列河津崎と義長よわ  
くして貝津の浜小居すし其しり  
位列善光寺櫻井新のあむしり  
京橋よ腐せど義長これとせめて敵  
と生捕其外数人しらきて義長右  
のあむと成ど

同十二年位列の位人紹田右衛門と

いふ位列福澤あり美田安房守幸昌  
京橋よ敵討すれあり紹田美田とん  
とわらせて逆んといふたつ先とま  
京橋より使とたて春日山へ何作と  
きのり紹田よはらるといふと病と  
称して来うど是より京橋義長よ  
命じて紹田とららるすづきのしり  
はら義長紹田うづらひと見廻と称  
して福澤ありしり京橋と成

と謝せんため人数六百引くして河原  
へ素向す一と義長先とをり一とめて  
細田とくらしらるる一其後共六百餘討  
捕其後急務し義長不和なうて去る  
り一属と  
長入年関が原陣の時

東照大権現よとるごひきとてまう河原  
能列の島山氏裏微みり 物命と  
かゆゆりて本氏よどりりて島山の

地伏職とたれは時妻子と人賞一  
大坂いとうあゆ

大権現先とまきり一されて名大坂へ  
つふるまふ一ゆりてよよりあ  
この事いふあきことお後とらやま  
義長りけつは今更やんがせらるん  
や後人賞はけさより出とよわらじと  
まば大坂へゆらととまきり子先と  
らむ(ま)りる一妻子とすてをまて

右の如く  
尤と因りてつゆよつらとぞ

義真

長門守 生國歌後 母ハ系掃ガ婦

系勝ヲ養子トスルテ今津ヨリ

長六年一ノリ

大権現と稱錫と

同十七年同十月十日没位下ノ殿と

元和二年七月駿府より

名流院殿

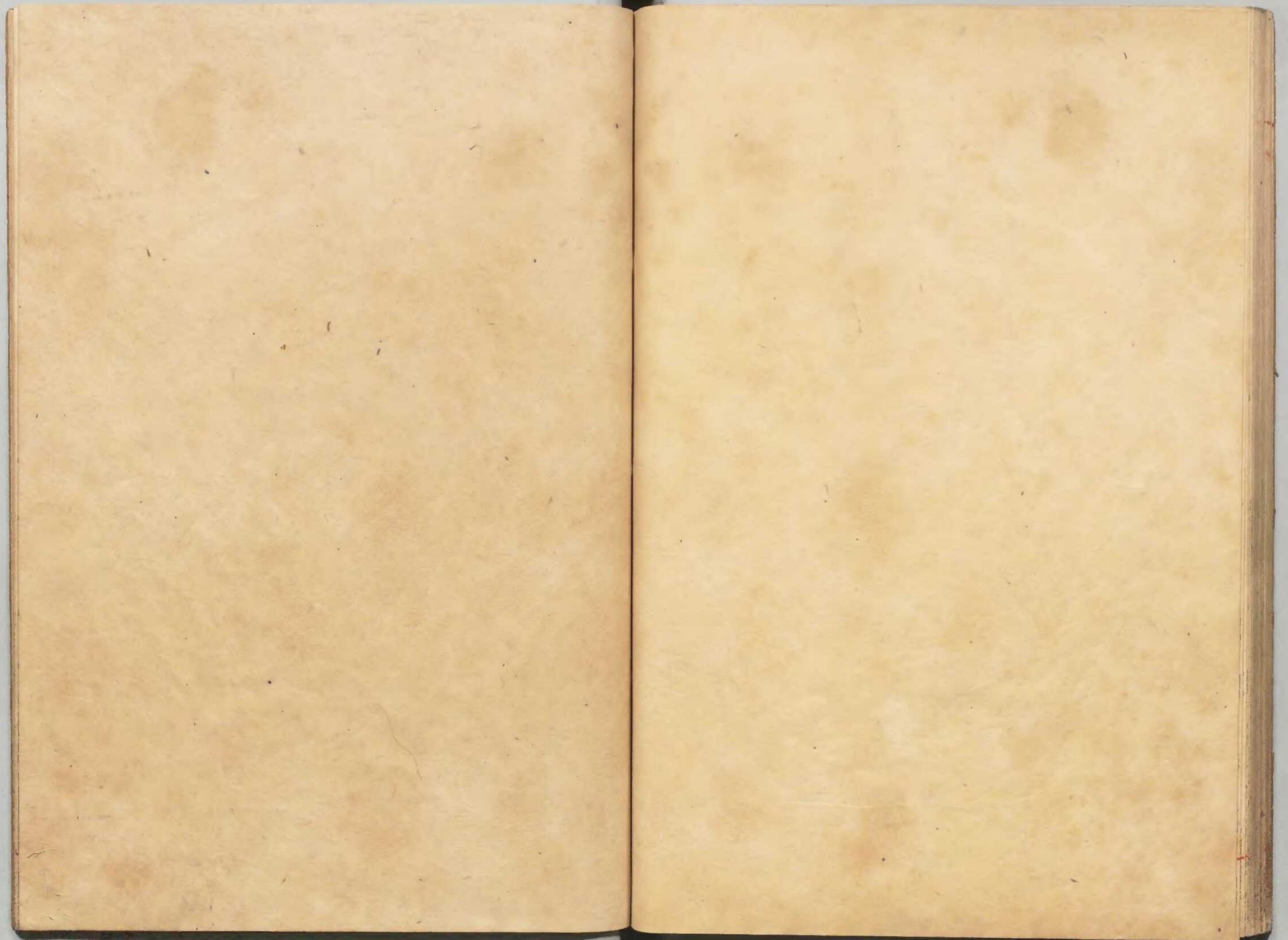
將軍家より

基昌

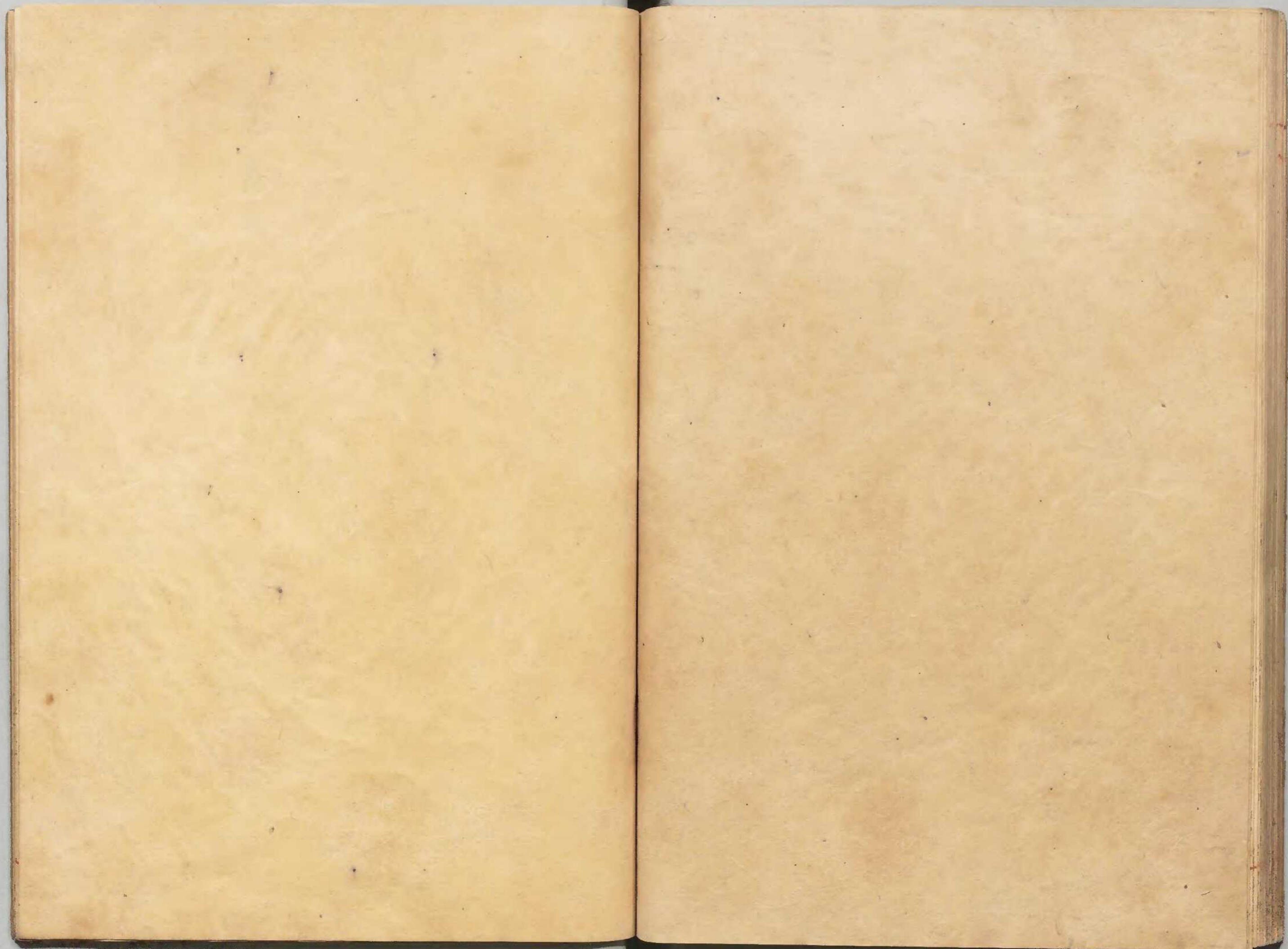
左近大吏

家紋桐

幕紋之幅白







留山満則六代

● 義長

民部少輔

法名入唐

事ハ留山長門守ガ系圖一ツマビ

リナリ

上校

姓の出るより留山一ツマビ

長貞ながさとし

源四郎げんしやうらう

生國歌後なまくにうたご

上校系勝かみしやうりかたの属まがと父義長ちちぎさとしより八島山やしまやまと

称号なづかひとして校通信かみとみづかひが養子やしよとなれゆへ

志こころらくくと校と称なづかひとしていふものらよ

留山氏るりやまのうぢより子志こしれども長貞ながさとしハ通信とみづかひ

より一ひとみわりのゆへにとて校かみとゆらゆ

長貞ながさとし六年十一月

東照大権現と相あひまと

同九年

大権現の命みことにゆり

右徳院殿みぎとくゐんよりゆへにそまひる

元和九年げんわ死しと

義真ぎまこと

畠山長門守はたけやまながたのり

系圖別けいずより出いと

長政 ながまさ

万吉 まんきち

早世 はやせい

長貞 ながさだ

宮内少輔 みやうちのすけ

先長政父のまこととほぐとつとつと早世  
少寛永六年長貞父のまこととほぐ

家紋 いえもん

幕政竹九菴 まくまさたけくさう

